

## ペルー

### 主要データ

国名〔英名〕	ペルー共和国〔Republic of Peru〕
面積(km <sup>2</sup> )	1,285,216
海岸線延長(km)	2,414
人口(百万人)	29.5
人口密度(人/km <sup>2</sup> )	23.0
GDP(百万US\$)	127,462
一人当たりGDP(US\$)	4,448
一人当たり銅使用量(kg/人)	1.9
主要鉱産物：鉱石(千t)	銅：1,268、亜鉛：1,603、鉛：345、金：180(t)、銀：3,686(t)、錫：39.0、モリブデン：16.7
主要鉱産物：地金(千t)	銅 463.9 亜鉛 190.0 鉛 114.0 錫 38.0
鉱業管轄官庁	MEM(エネルギー・鉱山省：Ministerio de Energia y Minas)
鉱業関連政府機関	INGEMMET(鉱山地質・冶金研究所：Instituto Geologico Minero Y Metalurgico)
鉱業法	鉱業一般法
ロイヤルティ	・総精鉱価格 60 百万 US\$以下 : 1 % ・ " 60~120 百万 US\$ : 2 % ・ " 120 百万 US\$以上 : 3 %
外資法	外資 100%の開発が認められている。法的安定性を保証
環境規制法(環境影響評価制度、環境・排出基準の有無等)	探鉱・開発段階ごとに、環境影響評価をエネルギー・鉱山省に提出し、その承認を受ける必要がある。 操業中の鉱山・製錬所については、環境適正化計画(PAMA)が適用。
鉱業公社	無し
鉱業活動中の民間企業	Southern Copper、Buenaventura、BHP B、Xstrata、FCX 他多数
近年の鉱業関連問題(資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	地元住民による反鉱山運動、鉱山労働者ストライキが多発。 鉱山収益を巡る地方政府同士、鉱山労働者対地方政府等の既得権抗争も表面化。
2008年のトピックス	・鉱石生産量では、銅、亜鉛、鉛とも拡大し、いずれも過去最高を記録。また、金も3年ぶりに増加に転じた。 ・我が国精鉱輸入相手国として、銅がインドネシアを抜いて前年3位から2位に、亜鉛が1位を堅持。

### 1. 鉱業一般概況

ペルーは、鉱物資源が豊富で多岐に及び、多くの鉱種で世界の主要生産国(2008年は、銅3位、亜鉛2位、鉛4位、金5位、銀1位)となっているのが特徴的である。

ペルーの2008年の鉱山生産量は、銅が前年比6.5%増の1,268千t、亜鉛が11.0%増の1,603千t、鉛が4.9%増の345千tといずれも拡大し、過去最高を記録した。また、金も主力のYanacocha 金山の生産能力拡大等により5.8%増の180tとなり3年ぶりに増加に転じた。

銀も5.5%増の3,686tとなった。

ペルーの2008年の鉱産物輸出額は前年比7.7%増の186.6億US\$に達し、鉱産物が占める割合は全輸出量の59.0%と前年とほぼ同様の比率を維持した。内訳は、最大の鉱産物輸出品目である銅が前年比5.8%増の76.6億US\$、次いで金が同34.4%増の55.9億US\$、亜鉛が同42.1%減の14.7億US\$で、これらの3鉱種で鉱産物全体の約8割を占めた。しかしながら、6月以降、急速に伸び率が鈍化し、特に金融危機による金属価格が急落した影響で、Q4は連

続して大幅な前年比割れとなった。

## 2. 鉱業政策の主な動き

2008 年は、鉱業政策を巡る大きな変更点はなく、①カノン税配分に伴う法改正、②探鉱許認可に伴う環境規則の改正、③鉱区保有年数の制限等が主なものであった。

### (1) カノン税配分に伴う法改正

鉱業カノン税は、鉱山会社が納める所得税の 50%を鉱山を操業する地域へ還元する制度である。改正前のカノン税法では、粗鉱量割合でカノン税還元率を算出していたため、精鉱の生産量がほぼ同じであるにも拘わらず、隣県間で税還元額に開きが生じるといった不公平性が指摘されていた。改正法ではこれを改善し、精鉱の売上高に基づいて配分されることとなった。また、複数県で鉱山操業を行う企業は、鉱山毎に会計処理を行い、これを基にカノン税を配分することとなり、鉱山による利益分が、鉱山が存在する県に混同することなく還元されることとなった。政府は、このような内容の『カノン税改正法案』を国会に提出し、2008 年 11 月に同法案が成立した。

### (2) 探鉱許認可に伴う環境規則の改正

エネルギー鉱山省は、2008 年 4 月に環境問題や地元住民とのトラブルを未然に回避するため、環境対策や地元住民との合意形成の徹底などを求めた探鉱許認可に伴う環境規則を改正した。

探鉱許認可に関する新しい環境規則の内容は、以下のとおり。

#### ① 地質調査

エネルギー鉱山省による許可は必要ないが、土地所有者の許可取得を義務化

#### ② 『カテゴリー I』（ボーリング調査 20 孔まで）

環境影響申告書(DIA)のエネルギー鉱山省への提出をもって自動承認(ただし、ウラン探鉱や、鉱害発生個所の探査等を除く)

#### ③ 『カテゴリー II』（ボーリング調査 21 孔以上）

エネルギー鉱山省に環境影響調査概要報告書(EIAsd)を提出し、地元住民の承認や同省

による審査を経て、最初の申請書提出から 55 日(祝祭日を除くワーキングデイ)以内に申請者に回答を通知。回答が無い場合、申請者に次の行動をとる権利を与え、当局に審査の迅速化を促すことができる。

- ・ その場合、申請者は、申請が否認されたと思なし、鉱業審議会に再申請。鉱業審議会は 30 日以内に審議し、結論を出さなければならない。
- ・ 引き続き当局からの回答を待つ(当局は、申請者が鉱業審議会に再申請しない場合、審査を継続し、結論を出す義務を有す)。

### (3) 鉱区保有年数の制限

鉱区の流動化を促すため、これまで無期限であった鉱区取得年数について、以下の制限が設けられた。

- ・ 鉱区取得の翌年から起算して 10 年満了時までに最低生産を履行できない場合、11~15 年目までの鉱区 1ha につき 350 Soles(約 120US\$ : 最低生産額の 1/10)に相当する罰金が課せられる。
- ・ 不可抗力による最低生産不履行が証明可能な場合は 5 年間の延長が可能(再延長不可)。
- ・ 鉱業権を取得した翌年から起算して 20 年目の時点で投資が継続していたとしても、最低生産量が履行できていない場合、鉱業権は失効。
- ・ 既に取得済みの鉱業権に関しては、鉱区期限の年数は 2009 年 1 月 1 日からカウント。

## 3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

### (1) 主要非鉄金属鉱石生産量

#### ① 銅

2008 年は、対前年比 6.5%増の 1,268 千 t で世界の銅生産量 15,499 千 t の 8.2%を占め、チリ(34.5%)、米国(8.6%)に次いで世界第 3 位であった。

#### ② 亜鉛

2008 年は、対前年比 11.0%増の 1,603 千 t で世界の亜鉛生産量 11,777 千 t の 13.6%

を占め、中国(27.1%)に次いで世界第2位であった。

③鉛

2008年は、対前年比4.9%増の345千tで世界の鉛生産量3,920千tの8.8%を占め、中国(39.4%)、豪州(15.2%)、米国(10.8%)に次いで世界第4位であった。

④金

2008年は、対前年比5.8%増の180tで世界の金生産量2,162tの8.3%を占め、米国(10.6%)、中国(10.2%)、南ア(10.2%)、豪州(9.9%)に次いで世界第5位であった。

⑤銀

2008年は、対前年比5.5%増の3,686tで世界の銀生産量19,837tの18.6%を占め、

世界第1位を堅持した。

⑥錫

2008年は、前年と増減なく39千tで世界の錫生産量312.4千tの12.5%を占め、中国(38.8%)、インドネシア(30.7%)に次いで世界第3位であった。

⑦モリブデン

2008年は、対前年比0.6%減の16.7千tで世界のモリブデン生産量218.7千tの7.6%を占め、中国(37.2%)、米国(26.2%)、チリ(15.4%)に次いで世界第4位であった。

表1. ペルー：金属鉱石生産量

(単位：千t)

鉱種	2006年	2007年	2008年	2008年増減比(%)
銅	1,049.1	1,190.3	1,267.8	6.5
亜鉛	1,202.0	1,444.0	1,603.0	11.0
鉛	313.0	329.0	345.0	4.9
金(t)	203.3	170.1	179.9	5.8
銀(t)	3,470.7	3,493.9	3,685.9	5.5
錫	38.5	39.0	39.0	0.0
モリブデン	17.2	16.8	16.7	-0.6

(出典：銅:ICSG Copper Bulletin May 2009、  
亜鉛・鉛:IZLSG Lead and Zinc Statistics June 2009、  
その他:Word Metal Statistics Yearbook 2009)

(2) 主要非鉄金属地金生産量

表2. ペルー：金属地金生産量

(単位：千t)

鉱種	2006年	2007年	2008年	2008年増減比(%)
銅	507.6	413.9	463.9	12.1
亜鉛	175.0	162.0	190.0	17.3
鉛	120.0	117.0	114.0	-2.6
錫	41.0	35.9	38.0	5.8

(出典：銅:ICSG Copper Bulletin May 2009、  
亜鉛・鉛:IZLSG Lead and Zinc Statistics June 2009  
錫:Word Metal Statistics Yearbook 2009)

### (3) 主要非鉄金属消費量

表 3. ペルー共和国：金属地金消費量

(単位：千 t)

鉱種	2006年	2007年	2008年	2008年増減比(%)
銅	52.9	54.5	54.8	0.6
亜鉛	69.0	74.0	73.0	-1.4
鉛	12.0	12.0	11.0	-8.3
錫	0.2	0.2	0.2	0.0

(出典：銅:ICSG Copper Bulletin May 2009

亜鉛・鉛:IZLSG Lead and Zinc Statistics June 2009

錫:Word Metal Statistics Yearbook 2009)

### (4) 主要非鉄金属輸出量

表 4. ペルー共和国：精鉱中含量・地金輸出量

(単位：千 t)

鉱種	2006年	2007年	2008年	2008年増減比(%)	主な輸出相手国
銅	990.0	1,147.4	1,273.4	11.0	中国、日本、ドイツ、韓国
亜鉛	1,026.0	1,215.0	1,392.0	14.6	中国、韓国、スペイン
鉛	326.0	304.0	368.0	21.1	中国、韓国、イタリア
錫	30.1	39.4	12.9	-67.3	

(出典：銅:ICSG Copper Bulletin May 2009

亜鉛・鉛:IZLSG Lead and Zinc Statistics June 2009

錫:Word Metal Statistics Yearbook 2009)

### (5) 主要非鉄金属輸入量

表 5. ペルー共和国：精鉱中含量・地金輸入量

(単位：千 t)

鉱種	2006年	2007年	2008年	2008年増減比(%)	主な輸入相手国
銅	3.0	0.9	0.5	-44.4	

(出典：ICSG Copper Bulletin May 2009)

4. 鉱山・製錬所状況

表 6. 鉱山一覧

(単位：千 t)

鉱山名	権益所有企業 (権益：%)	鉱種・形態	2008年 生産量
Antamina	BHP Billiton 33.75、Xstrata 33.75、 Teck 22.5、三菱商事(株) 10	銅 (精鉱中含量)	358
		亜鉛	383
Cerro Verde	Phelps Dodge 53.6、 Buenaventura 18.2 住友金属鉱山(株) 16.6、 住友商事(株) 4.2 他	銅 (精鉱中含量)	236
		銅 (SxEw カソード)	88
		銅 (合計)	324
Cujajone	Group Mexico(80%)	銅 (精鉱中含量)	196
		銅 (SxEw カソード)	5
		銅 (合計)	201
Toquepala	Group Mexico(80%)	銅 (精鉱中含量)	114
		銅 (SxEw カソード)	31
		銅 (合計)	145
Tintaya	Xstrata	銅 (精鉱中含量)	84
		銅 (SxEw カソード)	27
		銅 (合計)	111
Cobriza	Doe Run	銅 (精鉱中含量)	21
Condestable	Condestable	銅 (精鉱中含量)	21
Cerro Lindo	Milpo	銅 (精鉱中含量)	10
		亜鉛	78
Colquijirca	Brocal	銅 (精鉱中含量)	9
		亜鉛	85
		鉛	32
Cerro Corona	Gold Fields	銅 (精鉱中含量)	8
Iscaycruz	Los Quenuales (Glencore)	亜鉛	175
Cerro de Pasco	Volcan	亜鉛	136
		鉛	64
Animon	Administradora Chungar	亜鉛	85
		鉛	26
San Cristobal	Volcan	亜鉛	78
		鉛	15
Atacocha	Atacocha	亜鉛	62
El Porvenir	Milpo	亜鉛	54
San Vicente	San Ignacio de Morococha	亜鉛	39
Huanzala	三井金属鉱業(株) 70、三井物産(株) 30	亜鉛	30
		鉛	12
		銀 (t)	35
Pallca	三井金属鉱業(株)	亜鉛	12
		鉛	2
		銀 (t)	7
Yanacocha	Newmont 51.35、 Buenaventura 43.65、 IFC 5	金 (t)	56
Alto Chicama	Barrick Misquichilca	金 (t)	37
M. D. D	Madre de Dios	金 (t)	17
Pierina	Barrick Misquichilca	金 (t)	12
Orcopampa	Buenaventura	金 (t)	8
Santa Rosa-Comarsa	Santa Rosa	金 (t)	5
Acumulation Parcoy	Consorcio Mra. Horizonte	金 (t)	5
Acumulation Tucari	Aruntoni	金 (t)	5
Retamas	Retamas	金 (t)	4
La Poderosa de Torjillo	Pedorosa	金 (t)	3
San Rafael	Minsur	錫	39

(出典：エネルギー鉱山省)

表 7. 製錬・精錬所生産状況

(単位：千 t)

製錬・精錬所名	権益所有企業(権益：%)	鉱種・形態	2008年生産量	備考
I10	Group Mexico 80	銅	248	
La Oroya	Doe Run	銅	54	
		亜鉛	43	
		鉛	114	
Cajamarquilla	Votorantim	銅	2	
		亜鉛	147	
Funsur	Minsur	錫	39	

(出典：エネルギー鉱山省)

## 5. 我が国との関係

### (1) 日本への輸出

#### ① 銅精鉱

銅精鉱については、2006年には日本の総輸入量 4,633 千 t に対して 289 千 t と、割合で 6.2%、チリ、インドネシア、カナダ、豪州に次いで第 5 位であったが、2008年には総輸入量 4,941 千 t に対して 768 千 t (15.5%) となり、輸入量は 2006 年比で 2.7 倍に拡大した。その結果、豪州、カナ

ダ、インドネシアを抜いて銅精鉱の輸入元として第 2 位の地位を占めるに至っている。これは、Cerro Verde 鉱山からの日本向け輸出が大きく貢献したことによるものである。

#### ② 亜鉛精鉱

亜鉛精鉱についても、銅精鉱ほどではないが、2006 年比で輸入量が 1.45 倍に拡大し、2008 年には豪州を抜いて第 1 位 (29.7%) の輸入元となっている。

表 8. 日本のペルーからの精鉱・地金輸出货量

(単位：千 t)

鉱種	2006年	2007年	2008年	2008/2007(%)
銅精鉱	289	708	768	108.5
鉛精鉱	15	25	13	54.1
亜鉛精鉱	238	358	345	96.4

(出典：財務省貿易統計)

### (2) 日本企業による投資状況等

Huanzala 鉱山は、1968 年より約 40 年にわたり Santa Luisa 鉱業(三井金属鉱業 70%、三井物産 30%)が操業する中堅鉱山であり、また、Pallca 鉱山は、Santa Luisa 鉱業が三井金属鉱業から粗鉱権を得て、2006 年 3 月から本格的に操業を開始している。Pallca 鉱山で採掘された鉱石は Huanzala 鉱山に運搬され、同鉱山の選鉱場など既存設備により処理されている。Huanzala 鉱山の 2008 年の亜鉛、鉛及び銀生産量は、それぞれ 30,050 t、12,268 t 及び 34,674kg、また、Pallca 鉱山は、それぞれ 11,655t、1,856 t 及び 7t であった。

日本企業の投資状況としては、ペルー最大の Amtamina 鉱山に対して三菱商事が 10%の資本参加を行っている他、Cerro Verde 鉱山に対して、住友金属鉱山が 16.6%、住友商事が 4.2% 出資している。

### (3) EPA 交渉

日本とペルーの EPA(経済連携協定)について、2008 年 11 月の首脳会談で交渉開始に向けて前向きに検討することで一致し、これを受けて、2009 年 3 月下旬に両国政府間で準備会合が行われた。その結果、双方の基本的な立場等について共通認識が醸成されたことから、2009 年 5

月より EPA 交渉が開始されている。

## 6. その他トピックス

### (1) 大臣の交代等

2008年9月に Peru Petro が実施した石油鉱区入札において贈収賄が発覚し、Valdivia エネルギー鉱山大臣が引責辞任した。新たなエネルギー鉱山大臣には、元エネルギー鉱山大臣顧問であり、世界銀行のエネルギー専門家である Pedro Sanchez Gamarra 氏が就任した。

また、2009年6月4日に Isasi 鉱山次官が辞任したのを受け、Luis Fernando Gala Soldevilla 氏が鉱山次官に就任した。Gala 次官は、これまでにエネルギー鉱山省総鉱業局長を2度、鉱山次官顧問を1度務めた経歴を有している。

### (2) La Oroya 製錬所

La Oroya 製錬所は、米国 Doe Run 社が所有する銅・鉛・亜鉛の製錬所であるが、2009年3月に金融機関から借り入れていた融資75百万US\$が2月24日に停止されたことで一部操業停止の事態に陥っているほか、精鉱の仕入先である鉱山への支払い約100百万US\$を滞納していることが報じられた。その後、救済策として同製錬所を利用する民間鉱山会社15社による融資が検討された。しかしながら、救済条件である156百万US\$の債務の資本化と PAMA(環境適正化計画)遂行が果たせないことにより膠着した状況が続いていたもので、そのような中、8月に同社は会社更生を目的とする倒産手続き申請を行ったことを明らかにした。

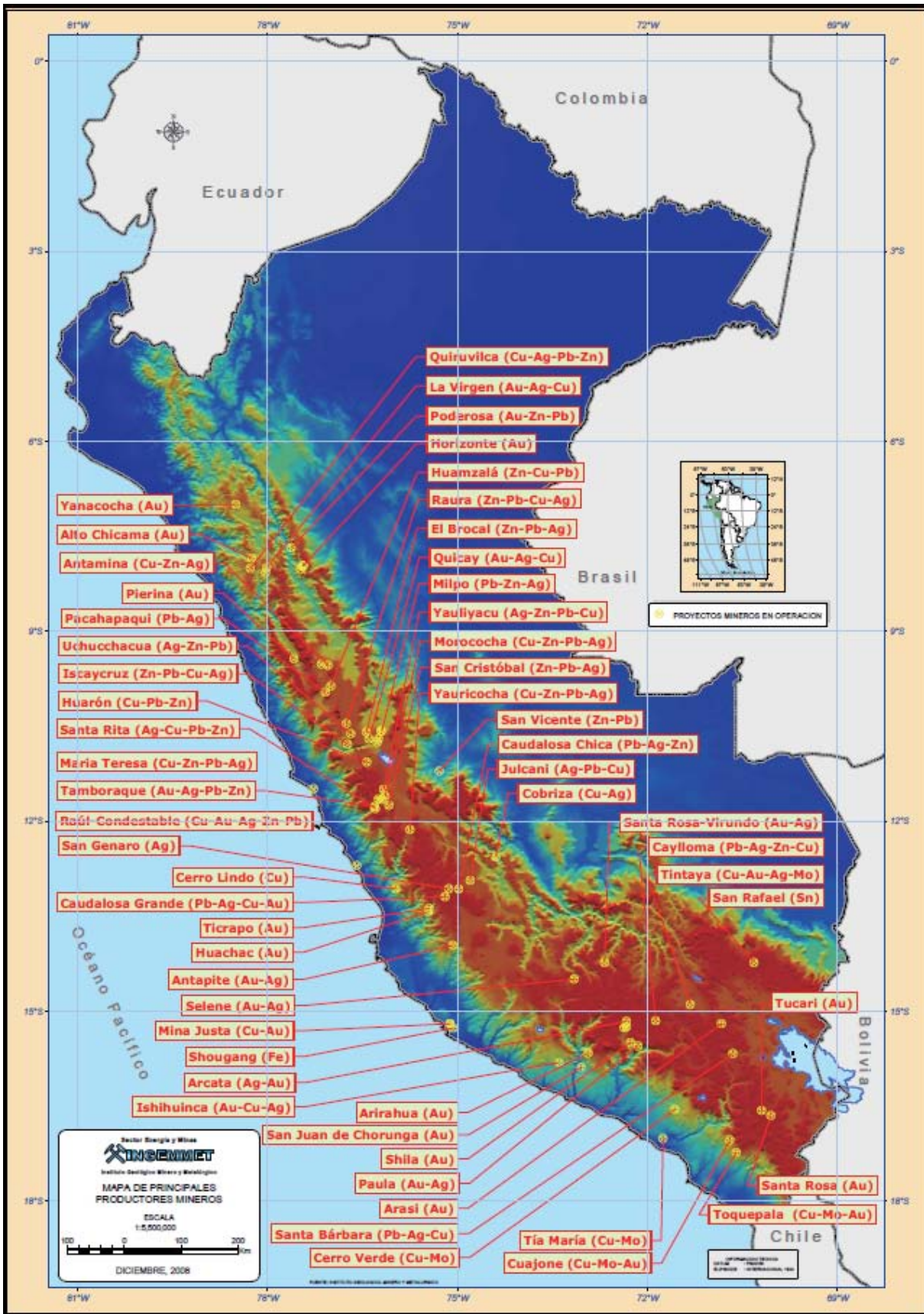


図1. ペルーの鉱山・製錬所位置図

(2009. 8. 6/リマ事務所 山内英生)